

ICoMST2022 News Letter No.3

第 68 回国際食肉科学技術会議 組織委員会

発行責任者 坂田亮一

発行日：2021. 11. 30



68th International Congress of
Meat Science and Technology
August 21-25, 2022

■ News Letter No.3 の発行に寄せて

日本で来年開催される第 68 回国際食肉科学技術会議 (ICoMST2022) について、今年の 6 月に News Letter No.2 を発行しました。

「日本食肉科学会」として、研究会を脱皮し新たに学会として出発して最初のお知らせとして、会員ならびに ICoMST2022 協賛企業・団体へもお送りさせて頂きました。組織委員会メンバー構成や来年の開催に向けての進捗状況を御理解いただけたのではと思います。

■ News Letter No.2 発行以降の活動状況

News Letter No.2 発行以降の活動状況を以下、本組織委員会の会議議事録からいくつか抽出し、箇条書きにてお伝えします。

- ・ 7 月 20 日、神戸国際会議場に組織委員会委員長が訪問し、会場担当部会長とともに国際コンベンションビューローと打ち合わせを行った。
- ・ 7 月 21 日、ツアー担当部会長と共に姫路の和牛マスターを訪問し、ツアー受け入れおよび和牛肉の提供を要請し、快諾頂いた。
- ・ 第 67 回国際食肉科学技術会議 (ICoMST2021) が 8 月 23 日から 27 日にポーランドのクラクフで開催され (ハイブリッド形式)、組織委員会メンバーは積極的に参加登録することと、ICoMST2021 報告書作成がプログラム担当部会長より指示された。また、組織委員会事務局長より、ICoMST2021 で発表する学生会員の参加費補助が提示された。
- ・ ICoMST2021 に組織委員会から 30 名が参加し (坂田委員長は現地参加)、有原副委員長が Keynote speaker として Session: Bioactive compounds from and for meat においてオンラインで講演を行った。また Closing ceremony で日本開催の ICoMST2022 紹介ビデオを放映し、委員長が開催説明を行い、本会議の伝統のカウベルを持ち帰った。



第 68 回国際食肉科学技術会議
組織委員会発行の News Letter No. 2



伝統のカウベル、1999 年 Yokohama の文字も刻印されている。来年は、Kobe 2022 が加わる。

- ・9月13日、ICoMST022 組織委員会幹事会（第12回）で、クラブの会議に実参加した委員長が現地の状況をパワーポイント画像で報告した。その会議で日本側の会議開催への熱意は十分に伝わり、実際来年神戸に行きたい声を会場で多く聞くことができたこと、また問題は厳しい日本入国の水際対策であること、などが述べられた。



ICoMST2021 報告画像。参加の詳細は「食肉の科学」本年2号の海外事情に掲載

■組織委員会の各部会から

本年9月13日に組織委員会（幹事会を）を開催し、各部会からの報告・意見のいくつかを以下に記します。

- ・広報部会：プロモーションビデオ（PV）が完成し、ポロランドの会議で放映された。ウェブサイトで、Contact ページの追加および Venue/City ページの拡充は現在終了。作業中は、News、SNS などのニュース性のある内容をトップページ上部に移動、PV 挿入、Greetings ページの新設と移動、およびスポンサーページのレイアウト等。



ICoMST2022 組織委員会（幹事会）の会議風景
第12回、2021年9月13日開催

スポンサーページ用の企業掲載依頼を事務局、募金部会等と連携して行う。Facebook と Twitter とともに随時更新中。

- ・プログラム部会：講演候補者の承諾が全員終了した。最終日の夜は Gala Dinner が行われるので、講演時間と質疑の時間が長くないよう制御する。またランチを簡単にして時間を短縮させる。
- ・会場・当日運営部会：市民広場を利用する場合の暑さ対策を検討中で、コンクリートの地面なので照り返しがきつく、暑くなる想定であり、現在アイデアを練っている。
- ・展示部会：現在、企業展示（計19小間）および書籍展示（5小間程度）に出展の可能性がある企業等をリストアップ中。
- ・事務局：会議ウェブサイトからの問い合わせ1件あり（ポスター発表申込時期、スペインの学生から）、JTB 西日本 MICE 事業部側で「来年に入ってからウェブに掲載する」と回答、など。

■今後の展望

新型コロナウイルスの影響にいかに対処するかが焦点ですが、まずは当初の計画通り対面式で行うことを前提に開催準備を行っています。「東京オリンピックの様子を見つつ、リモートを採用いれるか否か、世界情勢を鑑み、決断する所存です」と、News Letter No.2の最後に記しましたが、コロナパンデミックの中でTokyo Olympic2020を1年遅れでも開催しきったことで、「来年は日本に行ける!!」という希望を海外の研究者は持っています(ICoMST2021の会場の声)。その声に何とか応えることが組織委員会一同の願いです。

今後も皆様には、日本食肉科学会のウェブサイトと共に、ICoMST2022のサイトから発信される情報も定期的に見ていただきますよう、お願い致します。